

## [095] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10171>

---

出版情報：語文研究. 95, 2003-05-30. 九州大学国語国文学会  
バージョン：  
権利関係：

## 《會員著書紹介》

澤山 修著

### 『百人一首古注釈研究』

——「文明十年本」・「応永抄」本文と研究——

百人一首の古注釈として、最も古い注釈内容をもつといわれる宗祇の聞書、宮内庁書陵部蔵「百人一首」（文明十年本）と、最も古い奥書をもつ宮内庁書陵部蔵「百人一首抄」（応永抄）。これら二本は従来、任意に抄出、翻字されるにとどまっていたが、ここに初めて、全体にわたる翻字が出た。本書は、その翻字をもとに、注釈内容を比較することにより、百人一首古注釈史のごく初期の様相に迫ったものである。

構成は、「文明十年本」「応永抄」の解題、および翻字が収められた「第一部 本文編」と、「第二部 研究編」から成る。後者の目次は次のとおり。

I 「文明十年本」・「応永抄」の百首と作者

II 「文明十年本」・「応永抄」の研究

一 百人一首古注釈史概説

二 「文明十年本」と「応永抄」との成立関係

三 百人一首の序

四 百人一首古注釈の成立

五 「応永抄」の研究史概説

六 「文明十年本」と「応永抄」との注釈比較

七 「文明十年本」と「応永抄」の研究の今後の課題

百人一首古注釈の研究に大きく寄与する一冊になりそうだ。

（平成十四年十一月 雁回書房 A5判 一八〇頁 四、〇〇

〇円）

上野洋三校注

### 『吉原徒然草』

本書は、吉田兼好『徒然草』の文章を借りて、遊里とそこに集う人々の有様を描いた一書である。

慶長頃より知識人の間で徐々に愛好の気運が高まった『徒然草』は、その後講釈に用いられたり、注釈書が盛んに刊行されるなどして、古典としての評価を確立していった。それとともに、『徒然草』に拠った多くのパロディ作品が生み出されたことは自然の成り行きといえよう。しかしそれらはいずれも、『徒然草』の全段にわたるパロディに取り組んだものではなかった。

その中で唯一『徒然草』全体の戯画化を試み、これを成し

遂げたのが、上巻百三十七段下巻百十五段からなる本書『吉原徒然草』なのである。

解説の最後で、校注者は次のように述べている。

「読者には、手近な『徒然草』の一本を手元に置き、本書をゆつたりとお読みくださるようお願いしたい。語釈・意訳を超えて面白い二つの文章の関係が、無条件に、深い味を以って展開されることであろう」

巻末には詳細な語句索引が付され、本書を元禄・宝永期における吉原の風俗を示す参考資料として活用する際にも、大変有用である。

(平成十五年一月 岩波文庫 三二七頁 七〇〇円)

## 幼学の会編

### 『孝子伝注解』

本書は、黒田彰・後藤昭雄・東野治之・三木雅博・山崎誠四氏による「幼学の会」の研究成果である。内容は、「略解題」、「注解」、「影印」、「画像資料」(孝子伝図集成稿)、「解題 孝子伝図と孝子伝——羊公贅語——」から成る。

「注解」では、陽明文庫蔵本と京都大学附属図書館清家文庫蔵旧船橋家本とをそれぞれ上段に翻字し、下段に書き下し

文を配する。【校勘】では、底本の原文を改めた箇所を示す。さらに、個々の孝子の伝に関連する〈文献資料〉と〈画像資料〉、そして綿密かつ配慮の行き届いた【注】が施されている。「あとがき」に、「注解にあたっては、表面的に文意を解しただけでは事は終わらず、個々の孝子の伝が他の資料に現れる記述とどのような関係にあるのかを分析し、そこに現れてくる中国古代の社会、政治、祭祀、家族などの制度や状況に関しても配慮する必要がある。しかも『孝子伝』には、これに関連する漢魏六朝——場合によっては隋・唐に及ぶ——の数多くの画像資料が存在し、これらの画像との関係にも慎重に目配りして行かねばならないことも次第に明らかになってきた。」とあるように、本書は、従来、中国・欧米・日本の研究が、相互の情報交換や現物資料に対する認識不足のために犯していた誤りを明らかにする等、斬新で示唆に富む内容となっている。

猶、本書巻末には、(人名索引)、(地名索引)、(書名索引)、(一般語彙索引)を付す。

(平成十五年二月 汲古書院 A5判 五六八頁 一四、〇〇〇円)

久保田啓一著

## 『近世冷泉派歌壇の研究』

本書は著者が平成十年に提出した博士学位論文を中心に纏められている。近世和歌研究はここ数十年、急速に深化し拡大している分野であるが、その中心的研究者の一人が著者である。氏は、漸く本格的な研究の端緒が開かれ始めた堂上和歌を歌壇史・表現論の両面から照射し、近世文学の中で相対化を図ろうと試みている。その方向性を具現化する形で次の様に本書は構成されている。

### 序 章 近世和歌研究の問題点

#### 第一章 近世期冷泉家の歴代とその活動

第一節 近世冷泉家研究の課題／第二節 歴代の概観／

第三節 近世中期歌壇と冷泉為村

#### 第二章 江戸冷泉門の群像

第一節 江戸冷泉門と成島信遍／第二節 上下冷泉家の

確執／第三節 大田南畝と江戸歌壇／第四節 川崎池上

家『京進書札留』抜書／第五節 宝暦十二年江戸冷泉家

の点取和歌

#### 第三章 表現の模索と歌論・歌学

第一節 歌論と添削——冷泉為村の実作指導理念——／

第二節 創作と批評の場——寛保元年の二つの点取——

／第三節 近世中期冷泉派における歌学継承の諸相／第

四節 風雅和歌集の復権——江戸冷泉派歌論断章——／

第五節 「整はず候」と「聞えず候」——為村の批語と

表現意識(一)——／第六節 「むつかし」——為村の批

語と表現意識(二)——

#### 第四章 地方歌壇への視点

第一節 福岡藩歌壇史の展開と冷泉門歌人

終 章 今後の課題

本書は、近世堂上歌壇の大きな柱の一つとして冷泉家に着目し、また冷泉為村の実作および添削を精密に調査することによって、歌壇史・伝記研究と表現論との高度な統合という近世和歌研究の新しい在り方を我々に提示した二書である。

(平成十五年二月 翰林書房 A5版 三九六頁 八、八〇〇  
円)

今井源衛著

## 『今井源衛著作集 第一卷』

王朝文学と源氏物語』

本書は著者の長年にわたる王朝文学研究の集成である。全

十四卷。編集委員には教室で氏の警咳に接した人々も多く加わり、此度その第一巻が刊行された。

全巻の構成は、

第一巻 王朝文学と源氏物語

第二巻 源氏物語登場人物論

第三巻 紫式部の生涯

第四巻 源氏物語文献解題

第五巻 源氏物語の鑑賞・研究一

第六巻 源氏物語の鑑賞・研究二

第七巻 在原業平と伊勢物語

第八巻 漢詩文と平安朝文学

第九巻 花山院と清少納言

第十巻 平安中後期の物語と大鏡

第十一巻 王朝末期の物語

第十二巻 評論・随想

第十三巻 依田学海とその周辺

第十四巻 平安朝文献解題

と、その内容は王朝文学のほとんど全ての領域にまたがる。

周知の如く、氏には『源氏物語の研究』（昭和三十七年）や『王朝文学の研究』（昭和四十五年）をはじめ多数の著書があるが、後者を例にとれば、元の角川書店版のみならず、バルトス社の復刻版（平成七年）すらも現在では入手が困難な状況にあった。この全集の刊行によって、氏の学問が一層

の広まりを見せることが期待される。

本巻には「かいま見」「前渡り」といった王朝貴族の基本的所作にまつわる諸論や（特に「王朝物語構成上の一手法——かいま見について」は、「筆者の初めて書いた論文である」という）、為信集と源氏物語との関わりを詳細に考察した論などを収め、源氏物語の周縁に存する様々な問題を改めて浮き彫りにする。「今井学と称するほかない王朝文学研究の全貌」（秋山虔氏）の一端は、本巻からも十分に看取される。

（平成十五年三月 笠間書院 A5判 四四三頁 九、〇〇〇円）

目加田さくを 著

### 『平安朝サロン文芸史論』

フランスにおいて、名流婦人たちによって開かれたサロンが、文学作品を生み出すのに大きく貢献した時代は、十七・八世紀であったという。だが日本では、これとほぼ同様の活動が、早くも平安期に行われている。本書の著者は、この観点を、すでに昭和五十年刊『枕草子論』第一章第四節で披露していたが、その後、『東西女流文芸サロン——中宮定子と

ランブイエ公爵夫人』（共著）をへて、ついに、九世紀から十二世紀にわたる、後宮、内親王、齋宮、齋院のサロンを中心とした文芸通史が出た。

採り上げられたのは、次の三十七名、三十六サロン（徽子・規子母娘は一サロンとする）である。

第一章 二条后高子、中将御息所、皇大夫人班子女王、皇大

夫人温子、藤壺女御穩子、近江御息所周子、勤子内親王

第二章 齋宮女御徽子女王・齋宮規子、麗景殿女御莊子、中

宮安子、宣耀殿女御芳子、中宮煌子、一品資子内親王、中宮詮子

第三章 大齋院選子

第四章 皇后定子

第五章 中宮姫子、一品内親王修子、麗景殿女御延子、祐子内親王

第六章 六条齋院祿子

第七章 弘徽殿女御義子、上東門院彰子、前齋院（後三条皇后）馨子、鷹司殿倫子、齋宮良子、弘徽殿女御生子、

皇后寛子、篤子中宮、郁方門院媞子、齋宮姁子内親王、従二位親子、八条院暲子内親王、中宮育子、建

春門院滋子、高松女院姝子内親王

中でも、大齋院選子、皇后定子、六条齋院祿子は、「サロン山脈中の輝く三大高峰」（序章）として、それぞれ一章を当てて論じられている。

なお、巻末には、「平安朝サロン年表・関係系図」を付す。

（平成十五年三月 風間書房 A5判 九九一頁 三〇、〇〇〇円）